

1 教育目標

持続可能な社会の担い手として、多様で質的に豊かな成長につながる新たな価値を生み出していくことができる人を育成する。そのため、令和 8 年度より下記の教育目標に変更する。新しい教育目標をもとに、令和 8 年度の学校教育目標を次の通りとし、育成を目指す資質・能力を設定する。

本校の教育目標(令和 8 年度より改訂)

「自ら学び、共に育ち、未来を創る」

- ・自律
- ・協働
- ・創造

令和8年度学校教育目標

『大人になる練習をし、夢をかなえる土台を築く生徒の育成』

- 自分の意思と判断で、責任をもって行動し学び続ける生徒「課題対応力」
- ◎他者と支え合い、ともに成長しながら、多様な価値を認め合う生徒「人間関係形成力」
- 地域・社会と関わりながら新しい価値や可能性を切り拓く生徒「社会貢献力」

2 中期的目標と方策

- (1) 「個別最適な学び」「協働的な学び」を推進し、主体的・対話的で深い学びの視点での授業改善を日々行う意識をもち、確かな学力を育成する。
- (2) 生徒一人ひとりを大切にすきめ細かな指導を継続し、自己肯定感、自己有用感を高める。
- (3) 大人社会でも大切にされる 学校スローガン「明るいあいさつ・きれいな学校・時間を守る」を常に意識し、生徒の主体性を育成する。
- (4) 人権教育を推進し、「誰もが」「安心して」「自分の良さを発揮」できる学校づくりを推進する。
- (5) 府中版コミュニティ・スクールの円滑な推進と、家庭・地域・近隣小学校との連携を図り、共に学び、共に育つ学校づくりを推進する。
- (6) 生徒と教職員、保護者と教職員、地域と教職員、教職員同士の信頼関係を深め、活力ある学校づくりを推進する。

3 目指す学校像・生徒像・教師像

学校の役割は、未来への人材づくりと考え、生徒たちの多様な力と才能を引き伸ばし、社会に有用な人材を育てることにある。「信頼」「温もり」「笑顔」をキーワードに、子どもたちの今も未来も幸せにするために、保護者・地域が互いに協力し信頼し合い、義務教育9年間を終えるまでの3年間で、大人になる練習をする中で夢をかなえる力を育む学校を目指す。

(1) 目指す学校像

- 大人になる練習をし、夢をかなえる力を育む学校
- 一人ひとりが良さを発揮でき、笑顔があふれる学校
- 「前に踏み出す力」「考え抜く力」「チームで働く力」を育むために積極的に教育活動の改善・充実を図る学校
- 保護者や地域から信頼され、安心して生徒を通わせることができる学校

(2) 目指す生徒像

- 十中生であることに誇りを思い、「明るいあいさつ きれいな学校 時間を守る」を実践する生徒
- 失敗を恐れずに様々なことに挑戦し、粘り強く自らの力をより高く伸ばそうと努力する生徒
- 思いやりの心を持ち、行動する生徒
- 主体的に考動し、自己の役割を果たす、折り合いをつけて前に進むなど、チームで働く生徒

(3) 目指す教師像

- 大人として率先垂範する教師
- 生徒の学びを支援できる授業改善を積極的に進める教師
- 認め励まし、一人一人の望ましい自己実現や集団への適応を温かく支援できる教師
- 教育公務員としてサービスの厳正をし、組織の一員として強い自覚に基づいて職務を遂行する教師

4 今年度の取り組み目標

(1) 教育活動の目標と方策

全ての教育活動において、生徒の安全・安心を第一に考えながら企画・実施を行い、生徒の「主体性」を育む。また、あらゆる機会において「きづく」「つながる」「たかめる」教育活動の推進を図り、生徒の未来につなげる。そのために、教職員が学校経営方針を共通認識して学校運営に参画することを目指し、生徒・教職員の一人一人が、よりよい府中第十中学校を創る担い手となる教育活動を展開する。

(2) 今年度の重点目標

ア 「確かな学力」の育成

- ①ねらいと関連付け、「発見すること」「対話すること」「決定すること」「表現すること」の4つの視点を取り入れた授業の実践。
- ②話し合いや教え合いの場面を取り入れ、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善。
- ③一人1台タブレット端末でドリル教材等を活用した「個別最適な学び」と「協働的な学び」の充実。

【数値目標】

①～③授業に関するアンケート項目の「そう思う」評価の60%以上を目指す。

イ 「豊かな心」の育成

- ①暴力やいじめを許さない人権尊重教育の推進を通して、心豊かで他者を尊重する生徒の育成。
- ②教育活動全体において、「自己存在感の感受」「共感的な人間関係」「自己決定の場の提供」「安全・安心な風土の醸成」を実践し、生徒の自己指導能力の育成を図る。
- ③地域等との連携を一層充実させ、体験学習やボランティア活動等を推進し、地域社会の一員として自覚できる生徒の育成を図る。

【数値目標】

学校評価関係項目の「そう思う」評価の①・②は60%以上、③は40%を目指す。

ウ 「健やかな体」の育成

- ①健康と安全を意識させる指導を工夫し、行事や生徒会活動など、生徒が主体となって取り組み自己肯定感や自己有用感を育む活動を充実させる。
- ②基本的な生活習慣を主体的に身に付けさせるとともに、健康と安全についての理解を深めさせる。
- ③教育相談機能を充実させ不登校・特別支援教育など、健全育成上の課題に対してきめ細やかな対応を図る。

【数値目標】

①～③の学校評価関係項目の「そう思う」評価の60%以上を目指す。

エ 「連携による学校力」の向上

- ①育てたい児童・生徒像を具現化する小中連携を一層推進する。
- ②PTA、スクール・コミュニティ協議会、青少年対策第十地区委員会、地域等との連携を推進し、地域に開かれた学校、地域とともにある学校を目指す。
- ③自立に向けた学びと育ちを支援する特別支援教育、サポートルーム等一人ひとりに応じたきめ細やかな支援体制を構築する。

【数値目標】

- ①は児童・生徒及び教員行動連携事業を1つ以上検討・実践する。
- ②は、スクール・コミュニティ協議会主催での地域防災スクール(7月実施)を実施し、生徒の防災に対する意識の向上を図る。
- ③多様な進路先の高校の先生の話聞く会の実施など、高等学校や関係機関等との連携を図り、保護者向けの支援策を1つ以上実施する。

